

—【報告】法政大学 第8回 F Dシンポジウム—

「教員・職員の職務からみた教育改善—新たな展開を目指して—」

10月9日（土）、市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階S505教室にて、第8回F Dシンポジウム「教員・職員の職務からみた教育改善—新たな展開を目指して—」を開催しました。

近年、多くの高等教育機関や大学間連携組織において、教員・職員・学生の協働による「教育の質」向上のための議論や取り組みが行われています。

法政大学教育開発支援機構F D推進センターでは、「自由と進歩」の健学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するため、教育および学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組みをF Dと定義しています。F D推進のためには、教員・職員の職務の観点から「教育改善」を多角的に捉え、あらたな方向性の指針を得ることが必要です。

本シンポジウムは、現在まで幅広くF D活動を、教員・職員の立場から推進してこられた方々をお招きし、それぞれの立場からの「教育改善」の事例や本学での取り組みを紹介することを通じて、今後の教員・職員による新たな高等教育機関としての展開を考える場とすることを目的に企画され、このたび開催が実現しました。

パートⅠでは、司会の佛坂国際交流センター国際交流課主任の紹介により、同志社大学 文学部教授の圓月勝博氏による「教員・職員の職務からみた教育改善—新たな展開を目指して—」と題した基調講演が行われ、参加者は圓月教授のテンポよく笑いあいの楽しい講演に熱心に聞き入りました。

パートⅡの パネルディスカッションに先立ち、シンポジストの沖裕貴氏（立命館大学 教育開発推進機構教授）、今田晶子氏（立教大学 大学教育開発・支援センター課長）、清水栄子氏（公立大学協会 事務局主幹）より、教育の現場における具体的な取り組みや様々な活動が紹介されました。本学からは、現代福祉学部事務課の二關学課員が大学を代表して現代福祉学部独自の取り組みについて教育改善事例を報告し、続いて川上忠重F D推進センター長より本学のF D組織と事業の概要を発表しました。

坂本旬キャリアデザイン学部教授が司会進行役を務めたパートⅡパネルディスカッションでは、来場者からの質疑応答に基づき問題提起がなされ、シンポジストと来場者が一体となって、活発な議論が展開されました。

イベント終了後にはボアソナード・タワー26階のラウンジにて、基調講演を行った圓月教授や各シンポジストを囲んだ情報交換会も開催され、引き続き熱い意見交換がなされました。

第8回F Dシンポジウムは全国37大学から120名を超える参加がありました。これからの本学におけるF D推進において、確かな手ごたえを感じるシンポジウムとなり、盛況のうちに幕を閉じました。

教員、職員、それぞれの職務からみた教育改善の取り組みについて、参加者全員であらためて考えることにより、大学における今後の「教育改善」の在り方について検討する絶好の機会となりました。

次回のF Dに関するイベントは、2010年12月11日（土）13：00から、市ヶ谷キャンパス外濠校舎にて、第6回F Dフォーラムの開催を予定しています。